



目標8 国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている

1 めざす姿

- 都心部を中心とした高度な都市機能と、国際交流のゲートウェイにふさわしい充実した港湾・空港機能などにより、福岡都市圏は国際競争力の高い地域として国内外から評価されています。
- 多くの地場企業がアジアをはじめとした海外に積極的に展開しており、地域の経済を活性化しています。また、海外経験などをもつ日本人や留学生、外国人が、福岡市を舞台にさまざまな分野で活躍しています。
- アジアの中の成熟都市として蓄積した知識や経験を生かし、アジア地域が抱える社会課題の解決や生活環境の向上に寄与しています。
- 制度、習慣、言語などの違いを越え、海を挟んで向き合う福岡市と釜山広域市とが、二都市を中心とする圏域での生活経済圏を形成しています。

2 現状と課題

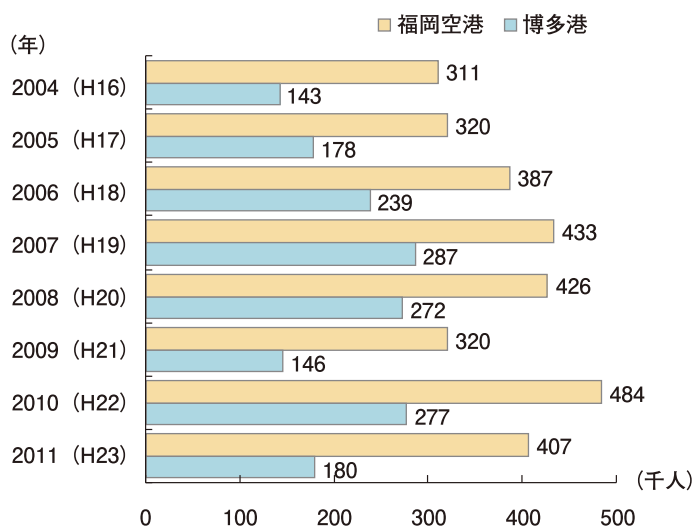
- ① 福岡市のみならず都市圏及び九州の経済を牽引していくには、都心部の機能強化が重要であり、今後もあらゆる人の活動を支えていくために、都市機能に磨きをかけていく必要があります。
- ② 公・民・学で先進的モデル都市づくりを推進しているアイランドシティや、知の拠点づくりを進めている九州大学学術研究都市など、都心部以外にも地域特性や財産を生かし、新たな活力を生み出す拠点を形成していく必要があります。
- ③ 人口減少局面を迎え国内市場の拡大が見込みにくい中、市内の事業者は市場を海外に求めており、海外展開のためのビジネス支援を強化していく必要があります。

- ④ 国際海上コンテナ取扱個数増やクルーズ客船(※1)の寄港増、国際RORO船(※2)などアジアとの物流網の充実、新規航空路線の就航などにより、人の移動や経済活動が活発化すると見込まれます。国内外の人流・物流の増加に対応するとともに、国際競争力をさらに高めるため、港湾・空港機能の一層の強化が必要です。
- ⑤ 福岡市ではこれまでもアジアを中心とした地域との人の交流が活発に行われてきましたが、今後、都市としての国際競争力において優位性を発揮していくためには、国際情勢に関する情報の把握能力を高めるとともに、グローバル感覚をもった人材の育成などにより世界とつながるグローバル人材を集積していく必要があります。
- また、外国人やその家族にとっても暮らしやすいまちであることが重要であり、教育や医療、情報アクセスなどの環境づくりが必要です。
- ⑥ アジアの諸都市が経済発展の一方でさまざまな都市問題を抱えている中、福岡市がアジアと共に発展していくためには、都市デザイン、環境、上下水道、交通、福祉などの分野で、国際貢献・国際協力していくことが必要です。
- ⑦ 釜山広域市は、福岡市と地理的に近接するという利点から、日常的な交流が盛んですが、経済文化交流をさらに推し進めるなど、次の展開につなげていく必要があります。

(※1)クルーズ客船 : 航空機や鉄道など代替・振替の輸送機関としてではなく、宿泊施設・様々なエンターテインメントを備えた、洋上ライフを楽しむための旅客船。

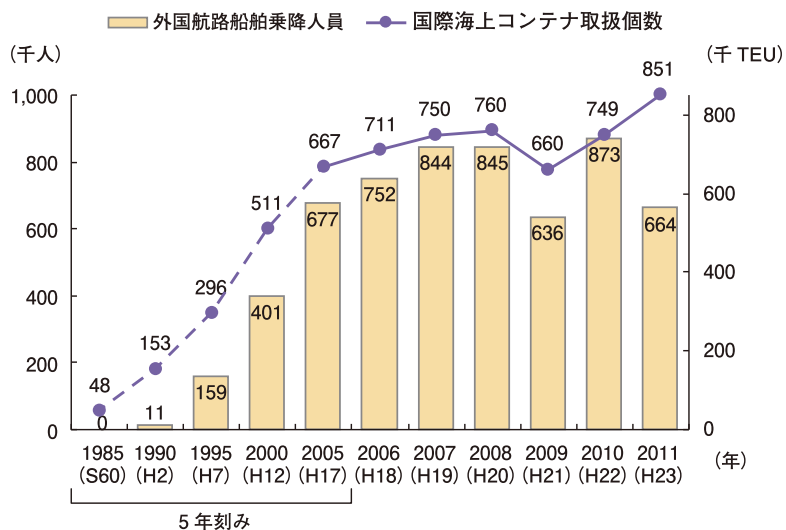
(※2)国際RORO船 : RORO(Roll-On Roll-off)船は、貨物を積んだ車両が直接船内に入り出して、貨物の積み降ろしをするため、他の船より作業時間が短い。博多港の国際RORO船は運航スピードが速く、航空輸送と比べても遜色ないスピードで低料金かつCO₂排出量も少ないことから、急ぎの貨物を低料金でエコに運びたい場合の輸送手段として注目されている。

福岡空港・博多港の外国人入国者数推移



資料：法務省 [出入国管理統計年報]

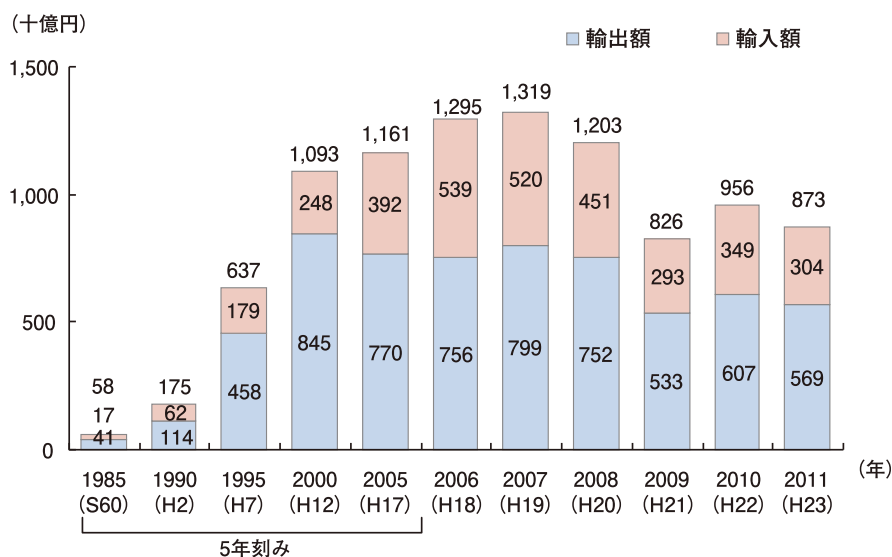
博多港における外国航路船舶乗降人員数と国際海上コンテナ取扱個数推移



資料：福岡市港湾局「博多港統計年報」

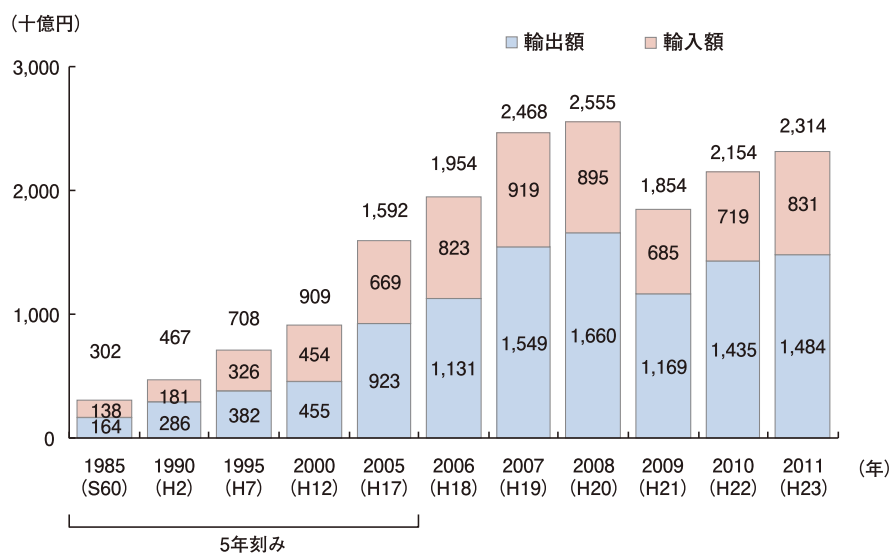
(注)TEU: Twenty-foot Equivalent Unitの略。20フィートコンテナに換算してコンテナ個数を数える単位

福岡空港の貿易実績（1985年～2011年）



資料：門司税関「外国貿易年表」
 (注) 四捨五入しているため、合計値の合わないところがある

博多港の貿易実績（1985年～2011年）



資料：門司税関「外国貿易年表」
 (注) 四捨五入しているため、合計値の合わないところがある

3 施策及び成果指標



施策8-1 都市の活力を牽引する都心部の機能強化

■ 施策の方向性

建築物の建替えと道路や公園などの公共基盤の整備・更新の機会を捉え、官民共働で高質なビジネス環境や広域から人を集める魅力づくりを推進し、都心部の国際競争力を高め、商業、文化、国際ビジネスなどの集積を促進します。

特に、都心部の核となる天神・渡辺通、博多駅周辺、ウォーターフロントの3地区について、それぞれの都市機能を高めるとともに、回遊性の向上を図り、地区間相互の連携を高めます。また、陸・海・空の広域交通拠点との近接性を生かしながら、3地区を一体として都心の機能の強化を進めます。

指標項目	現状値	目標値 2022(平成34)年(度)
都心部の従業者数	36万5千人 (2009年)	40万人 (2021年)
都心部の1日あたりの歩行者交通量 (注)	105,961人 (2011年度)	113,000人

(注)天神地区、博多地区の歩行者交通量の調査地点のうち12地点の合計(平日7時から20時まで)



施策8-2 高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり

施策の方向性

アイランドシティ、九州大学学術研究都市(※)、シーサイドももちの地域ごとの特性を生かし、港湾機能を生かした物流関連産業、成長分野である健康・医療・福祉関連産業や環境・エネルギー産業、福岡市のリーディング産業である情報関連産業など、さらには、大学の知的資源を生かした研究開発機能について、各地域への交通ネットワークの充実・強化を図りながら集積を促進し、拠点形成を進めます。

指標項目	現状値	目標値 2022(平成34)年(度)
アイランドシティ・九州大学学術研究都市・シーサイドももち(SRP地区(注1))の従業者数	13,127人(注2) (2009年)	30,000人 (2021年)

(注1) 早良区百道浜(シーサイドももち)において、情報関連企業などの産業集積エリアとして整備された地区(6.3ha)。福岡ソフト・リサーチ・パーク(SRP)センタービルを中核に、大手電機メーカー等が立地。

(注2) アイランドシティみなどづくりエリアを除く。



施策8-3 国際的なビジネス交流の促進

施策の方向性

コンテンツ産業や食関連産業など、競争力を持ち得る産業の海外展開への取組みをはじめ、地場中小企業の海外への販路拡大や外国企業とのビジネス連携を支援します。また、アジアとのネットワークを生かし、国の制度も活用しながら、ビジネス交流の促進を図ります。

指標項目	現状値	目標値 2022(平成34)年(度)
博多港・福岡空港における貿易額	3兆1,870億円 (2011年)	4兆円

(※) 九州大学学術研究都市：元岡・桑原地区などの伊都キャンパス周辺エリア



施策8-4 成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり

■ 施策の方向性

成長著しいアジアに近接し、今後さらにモノ・ヒトの交流が活発になる博多港と福岡空港について、多様な航路の維持・拡大や、港湾・空港の能力や利便性の向上、都心部や背後圏との連携の強化などの観点から、アジアの玄関口にふさわしい機能強化を図り、物流・人流のゲートウェイづくりを進めます。

指標項目	現状値	目標値 2022(平成34)年(度)
博多港国際海上コンテナ取扱個数	85万TEU(注) (2011年)	130万TEU
外国航路船舶乗降人員	87万人 (2010年)	210万人
福岡空港乗降客数	1,634万人 うち国際線241万人 (2010年)	1,800万人 うち国際線350万人

(注) Twenty-foot Equivalent Unitの略。20フィートコンテナに換算してコンテナ個数を数える単位



施策8-5 グローバル人材の育成と活躍の場づくり

■ 施策の方向性

国際感覚を身につけるためのさまざまな文化交流の機会を子どもや若者に提供し、グローバルに活躍できる人材を育成します。また、福岡で学ぶ留学生の学習環境を整え、地元での就業などによる定着を図ります。

さらに、さまざまな分野においてグローバルに活躍する人材とつながる機能や交流の場を創出することで、日本と世界をつなぐ人材の集積と交流の拠点をめざします。

指標項目	現状値	目標値 2022(平成34)年(度)
外国語で簡単な日常会話ができると思う生徒の割合	35.9% (2011年度)	60%
就労目的の在留資格をもつ外国人の数	2,702人 (2012年度)	4,000人



施策8-6 アジアの諸都市などへの国際貢献・国際協力の推進

■ 施策の方向性

福岡市の「住み良いまちづくり」を広くアジアに紹介し、アジアにおける都市問題解決に寄与することで、国際貢献・国際協力を積極的に推進します。この取組みにより、福岡市は、アジアにおいて知名度やステイタスを向上させアジアでの存在感を高めるとともに、ビジネスも含めた事業展開をめざします。

指標項目	現状値	目標値 2022(平成34)年(度)
視察・研修受入人数	602人 (2011年度)	1,700人



施策8-7 釜山広域市との超広域経済圏の形成

■ 施策の方向性

韓国第二の都市である釜山広域市との間で、国境や制度・習慣・言語の違いを越え、関係機関や団体と連携し、ビジネスや観光、人材育成、文化芸術面での交流などを通じて相互信頼関係を構築し、海を挟んで向き合う二都市を中心とする圏域での生活経済圏の形成をめざします。

指標項目	現状値	目標値 2022(平成34)年(度)
福岡・釜山間の定期航路の船舶乗降人員	69万人 (2010年)	90万人



施策8-8 アジアをはじめ世界の人にも暮らしやすいまちづくり

■ 施策の方向性

海外の多様な文化を理解し外国人とも隔たり無く交流できるよう、市民の意識の涵養に努めるとともに、日常生活に必要な情報提供などの支援を外国人に行うなど、日本人のみならず外国人にも住みやすく活動しやすいまちづくりを進めます。

指標項目	現状値	目標値 2022(平成34)年(度)
在住外国人の住みやすさ評価 (福岡市は住みやすいと感じる在住外国人の割合)	58.7% (2011年度)	67%
福岡市に住んでいる外国人の数	2,4115人 (2012年)	39,000人